

各 関 係 機 関 長 殿

岡 山 県 病 害 虫 防 除 所 長

病 害 虫 発 生 予 察 情 報 に つ い て

病 害 虫 発 生 予 報 第 2 号 を 下 記 の と お り 発 表 し た の で 送 付 し ま す 。

令 和 7 年 度 病 害 虫 発 生 予 報 第 2 号

令 和 7 年 4 月 3 0 日
岡 山 県

予 報 概 評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量	作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水 稻	苗立枯れ（もみ枯細菌病 による苗腐敗）	—	並	モモ	ナシヒメシンクイ	並	やや多
	ヒメトビウンカ	—	やや少	ブドウ	灰色かび病	やや遅	並
	縞葉枯病	—	やや少		べと病	やや遅	並
	ツマグロヨコバイ	—	やや少	キュウリ等	灰色かび病	—	少
	萎縮病	—	並				
	イネミズゾウムシ	やや早	並				
麦 類	アブラムシ類	—	やや少	イチゴ	うどんこ病	—	並
	ヤノハモグリバエ	—	やや少	タマネギ	べと病	—	少
ジャガイモ	疫病	やや遅	並				
				ナス等	ミナミキイロアザミ ウマ	—	並
モモ	灰星病	—	やや少	アブラナ科 野菜	アブラムシ類	並	並
	黒星病	並	並		コナガ	並	やや多
	せん孔細菌病	—	やや少	キク	アブラムシ類	—	やや少
	褐さび病	並	並				
	モモハモグリガ	—	並				
	ウメシロカイガラムシ	—	やや少				

(水 稻)

予報内容

予報の根拠

イ. 4月24日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発生をやや助長する条件である。

予報内容

予報の根拠

イ. 県予察ほ場（休閑田）における縞葉枯病保毒虫率は０％であり、平年（４．７％）より低かった。

予報内容

予報の根拠

イ. 萎縮病は近年ほとんど発生が認められない。

予報内容

予報の根拠

イ. 近年、本田での発生密度は減少～横ばい傾向にある。

予報内容

予報の根拠

予報内容

予報の根拠

防除上の参考事項

ア. 被害はオオムギで多く、コムギで少ない。多発地帯では水田裏作としたり、コムギに転換する。

(ジャガイモ)

(1) 疫病

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 並

予報の根拠

ア. ジャガイモの生育は平年よりやや遅く推移している。

イ. 4月24日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

2. 果 樹

(モ モ)

(1) 灰星病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 4月18日の巡回調査では、花腐れの発生ほ場率は4%で平年(23%)より低かった。

イ. 4月24日発表の1か月予報によると、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

(2) 黒星病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. モモの生育は平年並みに推移している。

イ. 4月18日の巡回調査(越冬病斑調査)によると、発生量は平年並であった。

ウ. 4月24日発表の1か月予報によると、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

(3) せん孔細菌病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 4月18日の巡回調査(春型枝病斑調査)によると、発生ほ場率は0%で平年(13.6%)より低かった。

イ. 4月24日発表の1か月予報によると、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

(4) 褐さび病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. モモの生育は平年並に推移している。

イ. 前年の発生量は平年並であり、伝染源の越冬量は平年並と考えられる。

(5) モモハモグリガ(第1世代成虫)

予報内容

発生量 並
予報の根拠

ア. 4月18日の巡回調査（南部）では、発生ほ場率は0%で平年（1.4%）よりやや低かった。

イ. 県予察ほ場のフェロモントラップによると、4月1～4半旬までの誘殺数は0頭で、平年（0.0頭）並であった。

ウ. 4月24日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発生をやや助長する条件である。

（6）ウメシロカイガラムシ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市の発生予察ほ場における越冬成虫の生存率は57.0%で平年（88.9%）より低かった。

イ. 4月18日の巡回調査（南部）では、発生ほ場率は17.9%で平年（21.4%）よりやや低かった。

（7）ナシヒメシンクイ

予報内容

発生時期 並

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、誘殺最盛日は4月9日と推測され、平年（4月7日）並であった。

イ. 4月1～4半旬の誘殺数は89頭で平年（36.7頭）より多かった。

ウ. 4月24日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発生をやや助長する条件である。

（ブドウ）

（1）灰色かび病

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 並

予報の根拠

ア. ブドウの生育はやや遅く推移している。

イ. 4月24日発表の1か月予報によると、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

（2）べと病

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 並

予報の根拠

ア. ブドウの生育はやや遅く推移している。

イ. 4月24日発表の1か月予報によると、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

3. 野菜

（キュウリ、ナス、トマト、イチゴ）

（1）灰色かび病

予報内容

発生量 少

予報の根拠

- ア. 4月 17、18 日の巡回調査によると、発生ほ場率はイチゴで 8.3%、
トマトで 25.0%でいずれも平年（イチゴ：35.6%、トマト：54.8
%）より低かった。また、キュウリとナスでは発生を認めず、平年
（キュウリ 0 %、ナス 3.3%：10 年間で 1 年のみ発生）並であった。
イ. 4月 24 日発表の 1 か月予報によると、気温は平年より高く、降水
量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

(イチゴ)

(1) うどんこ病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 4月 17、18 日の巡回調査によると、発生ほ場率は 8.3%と平年（
11.6%）並であった。
イ. 4月 24 日発表の 1 か月予報によると、気温は平年より高く、降水
量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

(タマネギ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 少

予報の根拠

- ア. 4月 18 日の巡回調査では発生を認めず、発生ほ場率は平年（53.5
%）より低かった。
イ. 4月 24 日発表の 1 か月予報によると、気温は平年より高く、降水
量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

(ナス、キュウリ)

(1) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 4月 17、18 日の巡回調査によると、キュウリ、ナスでの発生量は
平年並であった。
イ. 4月 24 日発表の 1 か月予報によると、気温は平年より高く、降水
量は平年並か少ないとされており、発生をやや助長する条件である。

(アブラナ科野菜)

(1) アブラムシ類

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

- ア. 赤磐市における 4月 1～4 半旬の黄色水盤への飛来数は 199 頭で、
平年（284.6 頭）よりやや少なかった。
イ. 4月 18 日の巡回調査によると、ダイコンでは平年同様発生を認め
ず、発生ほ場率は平年（8.5%）並であった。
ウ. 4月 24 日発表の 1 か月予報によると、気温は平年より高く、降水
量は平年並か少ないとされており、発生をやや助長する条件である。

(2) コナガ

予報内容

発生時期 並

発生量 やや多

予報の根拠

- ア．赤磐市における４月１～４半旬のフェロモントラップの誘殺数は、
５５頭で、平年（２３．２頭）より多かった。
- イ．４月１８日の巡回調査によると、ダイコンでは発生を認めず、平年
（発生ほ場率：０％）並であった。
- ウ．４月２４日発表の１か月予報によると、気温は平年より高く、降水
量は平年並か少ないとされており、発生をやや助長する条件である。

４．花 き

（キ ク）

（１）アブラムシ類

予報内容

発 生 量 やや少

予報の根拠

- ア．赤磐市における４月１～４半旬の黄色水盤への飛来数は１９９頭で、
平年（２８４．６頭）よりやや少なかった。
- イ．４月１８日の巡回調査によると、発生を認めず、発生ほ場率は平年
（２６．５％）よりやや低かった。
- ウ．４月２４日発表の１か月予報によると、気温は平年より高く、降水
量は平年並か少ないとされており、発生をやや助長する条件である。

この情報は、岡山県病虫害防除所ホームページでも公開しています。
アドレスは、 <http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/>です。

